

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月13日(火)

《毎日が奇跡、全ての関わりが奇跡》

もし望んでいらっしゃる奇跡があるとすれば、どのような奇跡でしょうか。今すぐに思いだしてみてください。もし神様が「あなたに一つだけ奇跡を起こしてあげるから、どんな奇跡がよいか言ってごらんください。」とおっしゃったら、何と答えますか？『若さ』でしょうか？『愛する亡くなった人が、生き返って戻って来ること』でしょうか？何がありますか？今、どんな奇跡を望んでいるのでしょうか？

私たちは、夢を食べながら、夢を持ちながら生きるのが一番基本的な姿です。しかし、年と共に現実的になりすぎて、夢があったことさえ忘れてしまう傾向がありますよね。けれども私たちは、死ぬときまで、呼びかけられるときまで、夢を持たなければならないと私は思います。そして、その夢が奇跡のように近づいてくることを希望として、胸に抱きしめながら生きるべきだと思います。

さあ皆様、たぶんいろいろな夢があると思います。若し神様が「奇跡をあなたに起こしてあげるから、何がよいか考えてみなさい。」と言ったら、それを決めることに悩んでしまって、崩れてしまうかもしれないですね。私たちは、本当にどのような奇跡を望んでいるのでしょうか。私たちにとって不幸なことは、多くの場合、どんな奇跡がほしいのかさえ分からないのに、「奇跡」、「奇跡」と願っていることです。何の希望を持っているのかさえはっきり分からずに、「希望」、「希望」と言っていることです。

さあ、人間は忘却の存在なので、よく忘れますね。忘れてはいけないことさえ忘れることがあります。そしてそれが、人生を崩してしまう一つの原因になっているのではないのでしょうか。皆様、愛された記憶がありますよね。しかし忘れてしまいます。皆様が心から慕った相手がいますよね。あまりこのような話をすると夫婦喧嘩になるかもしれませんね(笑)。「この人と一緒にいて本当によかった。」と思う友もいるでしょう。たくさんの知り合いもいるでしょう。そして、「ああ、本当にこれはよかった。」と思う体験もたくさんお持ちでしょう。それなのに忘れてしまいます。もし、そのようなよいことを忘れなければ、毎日が感謝の日になるかもしれません。「このような人に出会わせてくださった神さまに感謝します。」その人が今どこにいるのか分かりませんが、元気であなたの内に生きていれば、それ以上望むことはありません。」というような心の働きが、毎日どこかにあれば、最高だと思います。

歴史を振り返ってみて、奇跡を求めていたのに、本当に奇跡に出会えたことで悔い改めた人は、ほとんどいません。面白いことです。「毎日が奇跡、全ての関わりが奇跡、という思いを心に持ちなさい。」というのが福音的な奇跡の解釈ではないかと私は思います。「ああ、これが奇跡だ。」と思うことが大切なのです。

今日の福音(マタイ 11:20-24)で紹介されたように、イエス様は、イスラエルでたくさんの奇跡を

行われました。しかし、人々は悔い改めませんでした。ということは、“目の前に見えるものでは、人間はそんなには変わらない。”ということです。なぜならば過ぎてしまうからです。たとえば、お父さんが倒れたとしましょう。そして、子どもとお父さんの関係があまりよくなかったとしましょう。その倒れたお父さんを見る子どもの目はどうなるでしょうか。「悪いお父さんが倒れてよかった。」と思う子どもはこの世の中にどのくらいいるのでしょうか。たぶんいないでしょう。仲がよくなかったとしても、倒れてしまうと「お父さんごめんなさい。」という思いが先に生じるでしょう。「もっとあなたによくしてあげるべきだったのに、いつも逆らってばかりで申し訳ありませんでした。もし、これからまた機会をくだされば、私はもっと仲良くできるように頑張ります。」という気持ちになるでしょう。

皆様、今日の福音を読んでもう一回考えてみましょう。奇跡は、特別なものではありません。そして、もし皆様が望んでいる奇跡がある日突然起こっても、それが皆様の人生を変えたりはしません。思い出として語られ、他の人と分かち合う話にはなるかもしれませんが。しかし皆様の人生全体を変えてはくれないのです。むしろ、毎日、毎瞬間を奇跡として受け取る、生きていくこと自体を奇跡として受け取る、そういう心があれば、本当に全てのことが奇跡として私たちに近づいてくると思います。

今日の福音を通してイエス様が、「初めて出会った時に、あなたは私のことをどう思ったのか。洗礼を受けた時に、どのような気持ちでこれからの道を歩もうと決心したのか。」という質問を投げかけていらっしゃるのかもしれませんが。時間が経つと、やはり鈍くなってしまふのが私たちの心です。こういう問いかけを繰り返しながら、できるだけ生き生きしている、いつも氣力に満ちている、そういう心になれるように頑張りましょう。

今日は、私が叙階された日です。今考えてみると、19歳で神学校に入り、それから30年、青春を全部使ってしまいましたね。30年を懸けるくらいやりがいを感じる人生だったのか、時間だったのか、もう一回振り返ってみる一日でした。雨も降っているし、犬も静かにしているし、パソコンも面白くないし、「私はどのような道を歩んできたのか？」と振り返ってみたら、いろいろな思い出が浮かんできました。そして一番気になったのは、「本当にうまく生きたと言えるのか？」ということでした。やはり、今でもまだその問いに留まるのですね。結局、あと20年、許されればあと30年、このような生き方をするのでしょう。そして、たぶん毎日「間違えた、間違えた。もっとうまくやればよかったのに。」という気持ちで過ごすのでしょう。しかし、全体的に見てみると、「これが人生ではないか。間違えたところを探せるだけでもお恵みではないのか。」と思います。自分が間違えたことを、他人の前では「間違えました。」と認めにくいかもしれませんが。しかし、心の中では「自分の間違えた。これは直すべきだ。」と思いながら、一歩ずつでも歩むことができれば、それが神さまの伴う人生になるのではないかと思います。

さあ、皆様も私も、イエス様が望んでいらっしゃる道を歩もうとしています。その道が、実際には上手く行かないように見えることがあるかもしれませんが。しかし、自分のことを考える前に、神様が

すでにご存知で、一緒に伴ってくださることを固く信じる事ができれば、少し間違えてもよいのではないのでしょうか。そしていつも「お前にふさわしい結果を私が実らせる。」というイエス様のみ旨を固く信じながら行けばよいのではないのでしょうか。

一緒に叙階された人の中には、中途半端になって辞めた人も何割かいます。その時に祝ってくださった人々も、三分の一はもう亡くなっています。そのようなことを考えてみたら、自分が選んだこの道、いいえ、選んだのではなく選ばれたと信じているこの道を、いろいろなことがあっても、基本を守りながら、希望を諦めないで続けたいと今日一日思ってみました。

感謝致します。